# 連関を再編する住宅改修の詩学

指導教員　加茂紀和子　教授　　井上　玉貴

## 【1】研究の背景と目的

近年、戸建住宅の改修件数は増加しており、中でも空き家や地域コミュニティの希薄化などの問題に対し、地域的・民族誌的連関[1](以下連関)の再編を目的とする事例が多く見られる。一方で、それらの大半は、建築操作を最小限にとどめ、運営プログラムや仕組みづくりに重きをおいた改修であるため、外観や設えが新たな価値を形成している事例は少ない。

本来改修という建築行為には、積極的な建築操作を加えることで、新旧の対比を生み、根源的かつ刺激的な魅力である「更新のダイナミズム[2]」が内包される。コミュニティ形成等、連関の再編プログラムにこの観点を加えれば、イメージの刷新や新しいふるまいを生む可能性があると考える。

本研究では、現代の連関を再編する住宅改修の手法について分析を行い、新たな手法を提案し、普遍的住宅地において試作を行う。「更新のダイナミズム」を内包した連関の再編によって、潜在力を引き出し、地域活性化のベースとなる改修の詩学として考察、提案を行う。

## 【2】研究の概要

本研究は、(1)連関を再編する住宅改修の事例調査から、改修手法と新旧の変化を分析し、(2)郊外戸建住宅の積極的改修として、「更新のダイナミズム」の試作を行う。(3)その試作をベースとして、連関を再編する住宅改修の提案を行う。

## 【3】連関を再編する住宅改修の事例調査

### 3-1 調査対象

日本の建築ジャーナリズムを代表する雑誌『新建築』及び『住宅特集』(2009.2-2022.8)に掲載された住宅改修事例の中から、地域に開くことが意図された場(以下OS)を持ち、連関の再編について言及がある44事例を対象とする(表１)。

### 3-2 連関を再編する住宅改修の手法

#### 3-2-1 調査方法と分類

44事例の作品解説文の中で、改修操作について記述されているキーセンテンスを抜き出し、そこに表れる〈改修操作〉と[操作意図]を抽出し、22項目の〈改修操作〉と、12項目の[操作意図]を導出した(図１)。

#### 3-2-2 結果と考察

各事例に表れる〈改修操作〉と[操作意図]の関係を表すクロス集計表を作成した(表２)。

全体では、改修操作として〈土間を設ける〉、〈吹抜

表１ 研究対象 44 事例

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | OGU MAG＋ | 23 | 元浅草の事務所 |
| 2 | 西門前の住宅 | 24 | 千鳥文化 |
| 3 | 登り天井の教室 | 25 | 理科まちや |
| 4 | 下北山村 むらんち | 26 | 新建築社 北大路ハウス |
| 5 | Thouse Renovation | 27 | dog salon GRUM |
| 6 | knit. | 28 | 美容室と庭の家 |
| 7 | 茗荷谷の舎 | 29 | 観察と試み〈深大寺の一軒家改修〉 |
| 8 | ハウス／ミルグラフ | 30 | 富江図書館 さんござん |
| 9 | 母の家（HAHA、NO、IE） | 31 | 逆戻しの家 |
| 10 | ヤナカノイエ | 32 | あきるのシルバーハウス |
| 11 | 改修 小金井の家 | 33 | もやし町家 |
| 12 | 南行徳FROMM | 34 | 始めの屋根 |
| 13 | 城南の家 | 35 | 経堂のカフェ併用住宅 |
| 14 | 龍野の文具店 | 36 | 旧高田桶屋 |
| 15 | はとやまハウス | 37 | つつじヶ丘の家 |
| 16 | 大和蒸溜所 | 38 | 代々木の見込 |
| 17 | 長床の家 | 39 | ギャラリー富小路 |
| 18 | 須越の架構 | 40 | 福浦ハウス |
| 19 | コヤトキトツキ | 41 | エン、ハウス |
| 20 | ゲストハウス横宿西陣 千本上立売のコンプレックス | 42 | 御所西の町家 |
| 21 | HKR | 43 | 不動前ハウス |
| 22 | 西大井のあな 都市のワイルド、エコロジー | 44 | 千石の家 レスタウロ |

| 「西門前の住宅」須藤剛建築設計事務所<br>新建築住宅特集 2022 年 7 月号 78P | 抽出項目 | 抽出語句 | 項目 |
|---|---|---|---|
| 土間から繋がる路地が行き止まりなく内部を貫通し、隣接する道路や敷地の裏側に接続することで、敷地の外から建物、室に至るウチとソトの境界を弛ませたり結んだりしながら、拡張することを試みた。 | 改修操作 | 土間から繋がる路地が行き止まりなく内部を貫通し、 | 〈貫通路を設ける〉 |
| | 操作意図 | ウチとソトの境界を弛ませたり結んだりしながら、拡張することを試みた。 | ［境界を緩める］ |

図１ 改修操作と操作意図の抽出、分類例

表２ 改修操作と操作意図のクロス集計

| | ボリューム | | 外壁 | 内壁 | | 床 | | 天井 | | 屋根 | 開口追加 | 出入口 | 吹抜け | 縁側 | デッキ | 段差 | 土間 | 貫通路 | 余白 | 内装 | 仕上げ | 塀撤去 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 追加 | 撤去 | 撤去 | 挿入 | 撤去 | 挿入 | 撤去 | 挿入 | 撤去 | | | | | | | | | | | | | |
| ［人々の交流］ | 2 | | | 2 | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | **5** | 1 | 1 | 1 | | |
| ［境界を緩める］ | 1 | | | | 1 | | 1 | | | 1 | 1 | 1 | **3** | 2 | 1 | | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | |
| ［住まいの拡張］ | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 | | 1 | 1 |
| ［風景の共有］ | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 2 | |
| ［開放性］ | 1 | | 1 | 2 | 2 | | 2 | | 3 | | 2 | | | | | | **3** | | | | | |
| ［一体感］ | | | | | 1 | 1 | | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | |
| ［可変性］ | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 2 | | |
| ［多様性］ | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 1 | | | |
| ［汎用性］ | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ［アクセス性］ | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 2 | | | 1 | | | 1 | | 1 |
| ［演出性］ | | | | 3 | | | | | 1 | | 1 | | **6** | | | | | | | | 2 | |
| ［公私を分ける］ | 1 | | | 2 | | | | | | | | 2 | | | | 1 | | | | | | |
| 合計 | 5 | 1 | 1 | **11** | 5 | 1 | 3 | 1 | 4 | 2 | 7 | 3 | **13** | 5 | 3 | 2 | **14** | 6 | 4 | 5 | 6 | 2 |

| 「はとやまハウス」藤村龍至 /RFA<br>新建築 2020 年 2 月号 120P | 改修前平面図 | 改修後平面図 |
|---|---|---|
| 一部の構造を補強した上で壁、階段、キッチンなどを積極的に移設した。（中略）シェアハウスはときどきシェアオフィスになったり、シェアキッチンになったり、シェアガーデンになったりする（中略）。 | | |
| 改修操作 | 〈内壁を挿入する〉 | |
| 操作意図 | ［人々の交流］ | |
| **新旧の変化** | **｛スケール｝** | |

図２ 新旧の変化の抽出、分類例

表３ 改修操作と新旧の変化のクロス集計

| | ボリューム | | 外壁 | 内壁 | | 床 | | 天井 | | 屋根 | 開口追加 | 出入口 | 吹抜け | 縁側 | デッキ | 段差 | 土間 | 貫通路 | 提供空地 | 内装 | 仕上げ | 塀撤去 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 追加 | 撤去 | 撤去 | 挿入 | 撤去 | 挿入 | 撤去 | 挿入 | 撤去 | | | | | | | | | | | | | |
| ｛かたち｝ (10) | 4 | 1 | | **1** | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | |
| ｛材料｝ (9) | | | | **1** | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | 6 | |
| ｛スケール｝ (37) | 1 | | | **8** | 5 | 1 | 2 | | 3 | | 1 | | **13** | | 1 | | 1 | 1 | | | | |
| ｛構え｝ (20) | | | 1 | | | | | | | 1 | 4 | 1 | | **3** | 1 | | **6** | | | 2 | | 1 |
| ｛シークエンス｝ (11) | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | **2** | **4** | 1 | | | 1 |
| ｛用途｝ (17) | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | **2** | 1 | 1 | **4** | **1** | 2 | 3 | | |

The Poetics of House Renovation to Reorganize Social Links

Tamaki INOUE

けを設ける〉、〈内壁を挿入する〉が多く見られた。中でも〈土間を設ける〉には、[人々の交流]や[開放性]との関係が強く、〈吹抜けを設ける〉には、光の[演出性]が多いが、[境界を緩める]、[一体性]も含まれることが分かった。

### 3-3 改修操作と新旧の変化の関係

#### 3-3-1 新旧の変化の調査方法と分類

次に44事例の改修前後の図面と概要から、主な{新旧の変化}を抽出し、大きく６項目を得た(図２)。

内外の空間形態の変化を{かたち}、内外の仕上げ材の変化を{材料}、内外の空間の大きさの変化を{スケール}、地域へのファサードの形成を{構え}、動線の変化を{シークエンス}とし、住宅の転用や兼用など使い勝手の変化を{用途}とした。

#### 3-3-2 結果と考察

次に〈改修操作＞と{新旧の変化}の関係性を表すクロス集計表を作成した(表３)。

〈吹抜けを設ける〉、〈内壁を挿入する〉といった{かたち}、{材料}、{スケール}に関係する群に対し、〈土間を設ける〉、〈縁側を設ける〉、〈貫通路を設ける〉は{構え}、{シークエンス}、{用途}に関係する群に表れることが分かった。

## 【４】「更新のダイナミズム」の試作

### 4-1 概要

〈土間を設ける〉、〈縁側を設ける〉、〈貫通路を設ける〉といった{用途}に関係する改修操作が、さらに{かたち}、{材料}、{スケール}の変化をつくりだす操作となれば、「更新のダイナミズム」が生まれると考え、試作を行った。その試作例の一部を示す(図３)。なお試作のベースは、郊外住宅のプロトタイプとして実家(鉄骨造２階建て、建築面積 90.19㎡、角地、２方向道路接道)を用いることとした。

### 4-2 試作

No.1,11など{材料}の変化をつくりだす操作は、内部の様子が外部に溢れ出す要素となっており、No.3,18など{スケール}の変化をつくりだす操作は、接道面に設けることで開放的かつ人々が集まる空間となる。No.13,16など{かたち}の変化をつくりだす操作は、奥へと人を引き込むアプローチ空間とすることができる。さらにNo.17,19は、{かたち}、{材料}、{スケール}の変化をつくりだすと同時に、{構え}、{シークエンス}の変化が現れており、操作の組合せが多様な対比を生むものとしている。

## 【５】建築計画

### 5-1 対象敷地の概要

実家が位置する愛知県一宮市は、標高差の少ない極めて平坦な土地であり(図４)、古くから繊維の街として栄えてきたが、近年繊維産業は衰退している。また、繊維産業従事者への喫茶店における飲食提供が元となり、一宮市発祥であるとされるモーニング

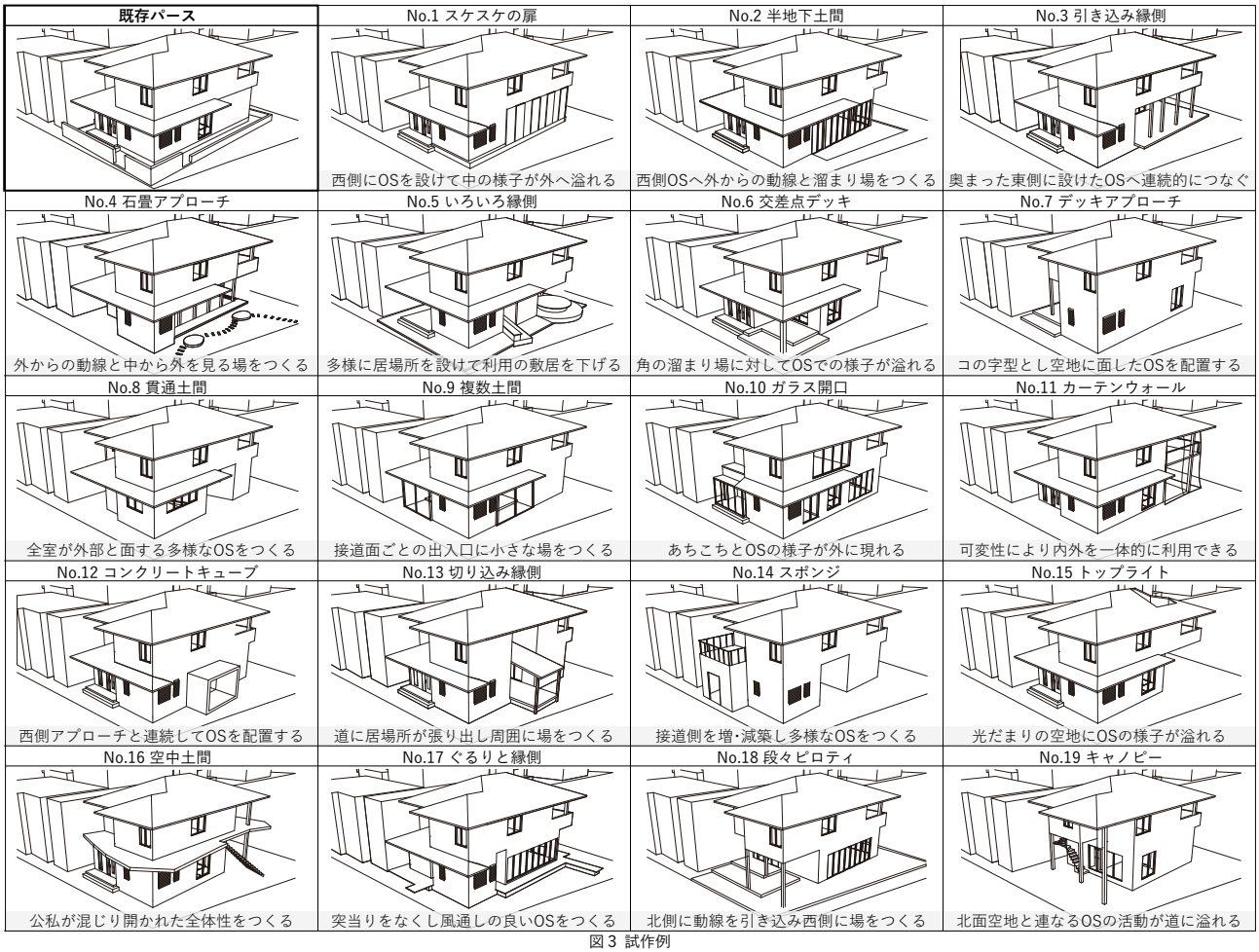

図３ 試作例

などの喫茶文化が、市民全体の生活の一部として定着しており、住宅地内にも喫茶店が複数点在している。対象敷地の萩原町は繊維産業が分業制である名残から、現在でも自営業所と住居＋倉庫の住居形式が多く見受けられる。対象地にも住居兼事務所の母屋とかつて繊維業で利用していた倉庫がそのまま残っており（図５）、母屋は一階を事務所とし、二階住民はすでに他へ引越したため空きスペースとなり、時々地域の集まりに利用される程度である。

### 5-2 連関の再編プログラム

本提案では、喫茶文化に代表される一宮のコミュニティの再編を目論み、住居とオフィスを住み開き、地域の交流拠点となるみんなのラウンジ、テイクアウト限定でコーヒーなどを販売する喫茶スタンド、レンタルスペースとして提供するシェアオフィス+貸会議室を計画する（図６）。

### 5-3 改修対象における試作

#### 5-3-1 概要

【４】で作成した試作をベースに操作を組合せ、対象敷地の環境や状況を踏まえた連関を再編プログラムと「更新のダイナミズム」による試作を行った。その試作例の一部を示す（図７）。

#### 5-3-2 試作

試作から、「更新のダイナミズム」をもたらす新旧の対比とプログラムの配置計画を掛け合わせ、設計要件を抽出する。

接道面である北、西から動線を引き込み、更地や畑と隣接し落ち着きのある南側に交流拠点を設けることで多面的な構成とする。さらに母屋から倉庫側へ場を広げて2棟を一体的に操作する。

### 5-4 設計概要

敷地中央に喫茶スタンド、みんなのラウンジを配置し、地域コミュニティの軸となる道をつくりながら、軸に合わせて倉庫を切り取り、地域に開かれた新たなファサードを設える（図８）。倉庫一階はシェアオフィスとしてメンバーシップを設け、主婦の副業や自営の会議で利用され、二階は内部に母屋のボリュームが貫入し、日常的にはオフィスである場が定期的にワークショップやレクチャーなどによって開かれる計画とする（図９）。連関を再編するプログラムに加えて、散歩のついでや学校帰りに寄り道できる縁側やデッキなどの小さな居場所を、新旧の対比を生む積極的な改修によってつくりだし、地域のイメージを刷新し、地域住民に永く愛されるサードプレイスとなることを目指した（図10,11）。

## 【６】結論と展望

本研究では、現代の連関を再編する住宅改修の手法の分析から、新たな手法を提案し、普遍的住宅地において「更新のダイナミズム」を内包した連関の再編

図4 旧実家位置

図5 対象建物　写真１実家（対象建物）

表４ 建物概要

| | |
|---|---|
| 用途地域 | 第一種住居専用地域 |
| 構造 | 鉄骨造２階建て |
| 主要用途 | 住居兼事務所（＋倉庫） |
| 竣工 | 1993 年 |
| 敷地面積 | 252.09 ㎡ |

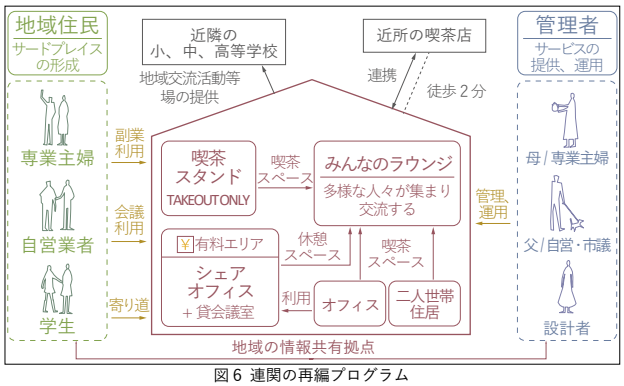


図６ 連関の再編プログラム

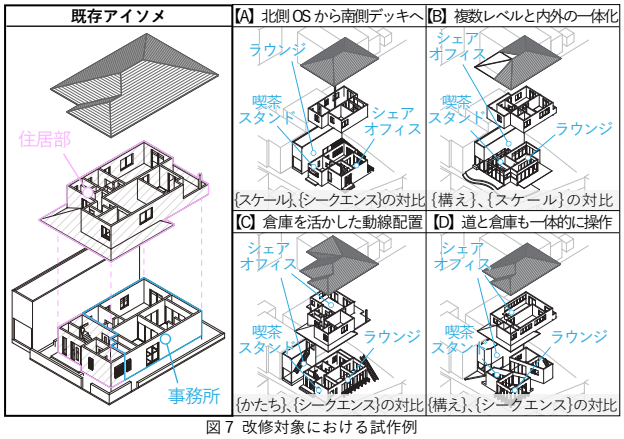


図７ 改修対象における試作例

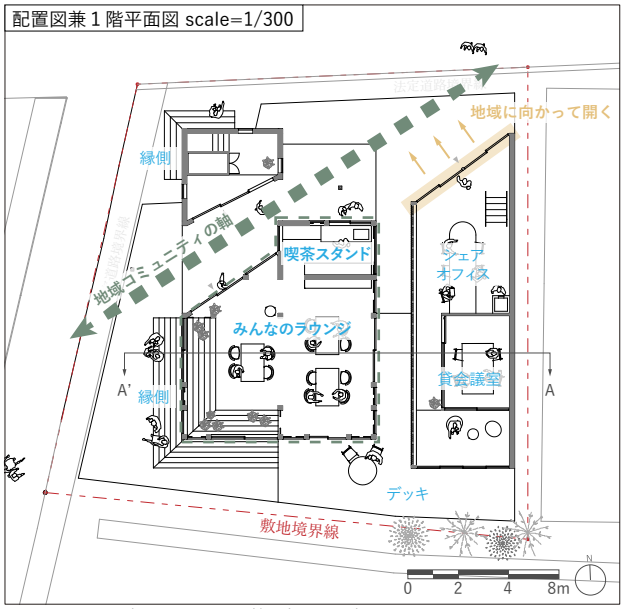


図８ 地域コミュニティの軸を中心に地域コミュニティの場をつくる

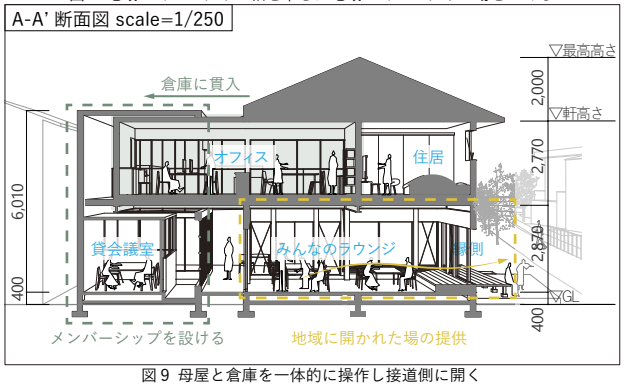


図９ 母屋と倉庫を一体的に操作し接道側に開く

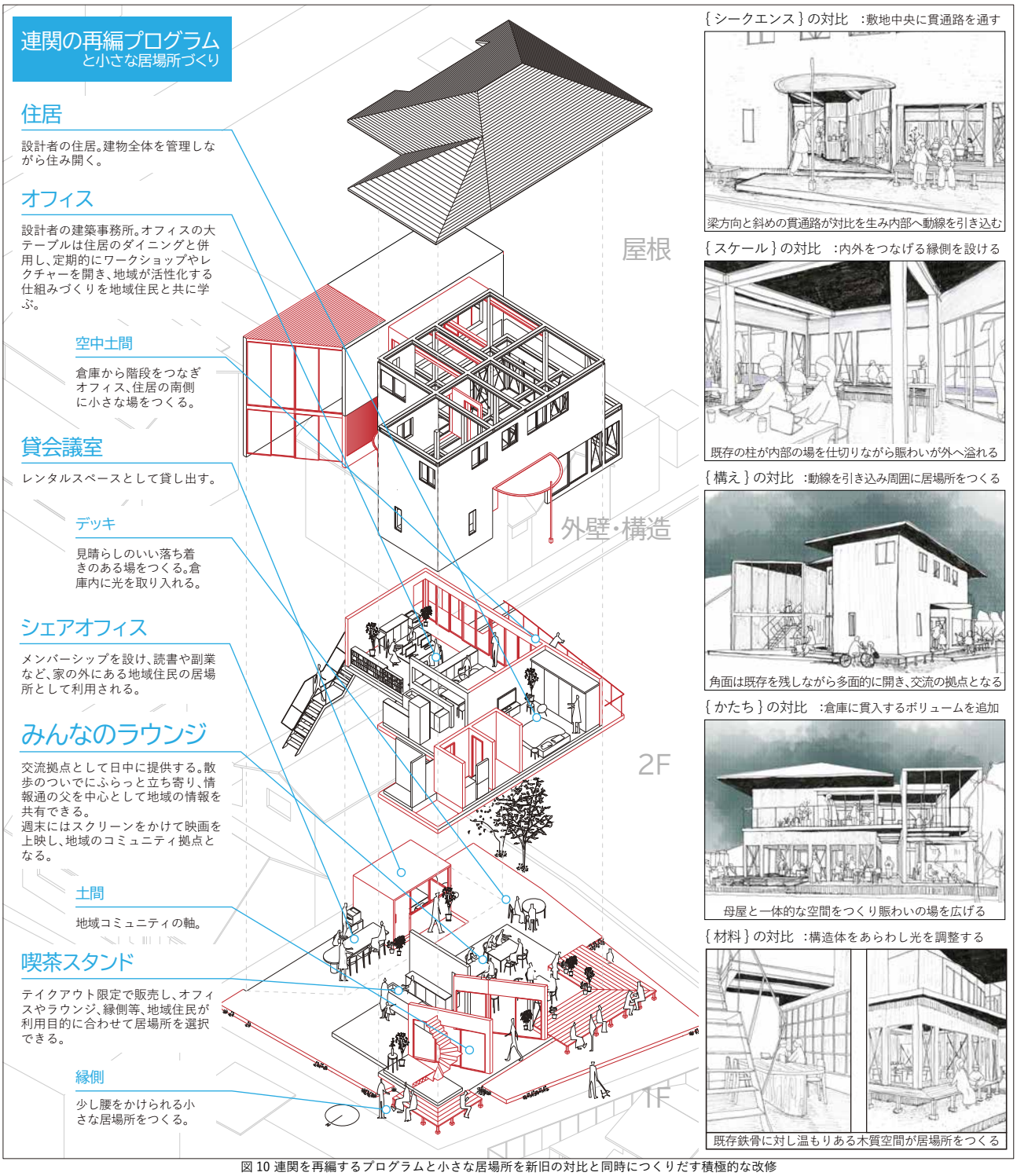


図 10 連関を再編するプログラムと小さな居場所を新旧の対比と同時につくりだす積極的な改修

図 11 北西パース

によって、地域活性化のベースとなる改修の詩学として考察、提案を行った。

今後は修繕、解体など他の改修の建築行為について研究することで、より多様な積極的改修が可能になると考えられる。

実際の改修は耐震面や経済面などの多くの解決すべき課題を抱えているが、本研究をきっかけにそれらの問題解決を超え、根源的な建築あるいは改修の魅力にまなざしが介入することを期待している。

【注】1. 塚本由晴:『「空間」批判と建築タイポロジーによるコモンズの再構築』, 新建築社住宅特集, 2021. 8
2. 藤原辰史:『分解の哲学-腐敗と発酵をめぐる思考-』, 青土社, 2019

【参考文献】[1] 五十嵐太郎:「モダニズム崩壊後の建築-1968年以降の転回と思想」, 青土社, 2018 [2] 藤村龍至:「批判的工学主義の建築:ソーシャルアーキテクチャをめざして」, NTT出版, 2014 [3] 一宮市公式HP